

# 中学生が意見を発表

## 中学生の主張大会

「第34回中学生の主張大会」が11月3日、たましんRISURUホール(立川市市民会館)で行われました。当日は市内中学生3350人の応募から選ばれた中学生16人が、日常生活において、家族や友人、社会との関わりの中で気付き、考えたことを発表しました。主な入賞者は次の通りです。《敬称略》

- ▼市長賞 後藤万里奈(一中・3年) ▼議長賞 横山輝良(五中・2年)、小高海音(一中・1年)
- ▼教育委員長賞 小林岳(六中・1年)、大石菜緒(四中・3

- 年) ▼特別賞 田中大貴(二中・3年)、加藤美柚(三中・2年)
- 問 子ども育成課青少年係・内線1306

## 少年の主張全国大会 市内の中学生が出場

11月9日に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された第36回少年の主張全国大会に、六中・3年の小林晴日さんが出場し、奨励賞を受賞しました。当日は、全国56万人の応募の中から選ばれた12人が発表を行いました。

- 問 市青少年問題協議会事務局(子ども育成課内)内線1306

## 全国中学生人権作文コンテスト

中学生の皆さんが人権尊重の大切さを考え、豊かな人権感覚を身に付ける「全国中学生人権作文コンテスト東京都大会」で市立中学生が次の通り入賞しました。《敬称略》

- ▼東京都大会奨励賞 堺桃子(一中・2年) ▼東京都大会作文委員会賞 坂本昂平(五中・2年)、大島清伽(五中・2年)
- ▼多摩西人権擁護委員協議会長賞 五十嵐佳穂(五中・2年)、鈴木美紗子(一中・2年)、清水さや香(五中・2年) ▼立川地区人権擁護委員会佳作 伊藤結菜(九中・1年)、堀川由詩(五中・2年)、青木舞夏(九中・

- 1年)、向山美咲(五中・2年)、中野桃花(九中・2年)
- 問 生活安全課市民相談係 ☎(528)4319

## 中学生「税についての作文」 「税の標語」表彰

次代を担う中学生の皆さんに税への関心と理解を深めてもらうことを目的としています。市立中学校の受賞者は次の皆さんです。《敬称略》

- 税についての作文 ▼市長賞 鹿野伶奈(三中・3年) ▼教育長賞 丸山紗季(一中・3年) ▼立川都税事務所長賞 橋口未緒(七中・3年) ▼東京納税貯蓄組合総連合会会長賞 堀合優花(一中・3年) ▼多摩納税貯蓄組合連合会優秀賞 谷美月(六中

- ・3年)、永津遥香(九中・3年) ▼多摩納税貯蓄組合連合会入賞 後藤万里奈(一中・3年)、荻原彩楓(二中・3年)、菅原嗣音(三中・3年)、中澤萌々香(四中・3年)、西村万帆(五中・3年)、西尾菜々実(六中・3年)、田畑美咲(七中・3年)、小野里歩果(八中・2年)、三浦知優(九中・3年)

- 税の標語 ▼市長賞 大林歩夢(四中・1年) ▼立川税務署長賞 鈴木友悠(四中・1年) ▼立川関税会会長賞 久保和奏(五中・1年) ▼入選 青木実(二中・1年)、廣川瑞季(四中・1年)、二上彰太(四中・1年)

## 小学校の情緒障害等通級指導学級説明会の日程を変更

平成27年度にお子さんの入級を検討している保護者の方を対象に説明会を開催します。就学時健診資料には2月と記載していましたが、次の通り日時を変更します。なお、申込時期などは「広報たちかわ」1月25日号でお知らせします。

- 時 3月2日(月)午後2時～3時
- 30分 場 子ども未来センター
- 問 特別支援教育課 ☎(527)6171

## 特別支援教育講演会

「発達障害のある児童・生徒の対応について」二次障害の予防に向けて「をテーマに講演会を開催します。くわしくはホームページをご覧ください。

- 時 2月6日(金)午後3時～4時

## 受験生チャレンジ 支援貸付事業

立川市社会福祉協議会は、一定所得以下の世帯で家計の中心となる方に対し、中学3年生・高校3年生の学習塾などの受講料と高校・大学の受験料の無利子貸付事業を行っています。学習塾など受講料貸付金は、上限20万円。高校受験料貸付金は上限2万7400円、大学受験料貸付金は上限10万5000円です。くわしくはお問い合わせください。

- 問 立川市社会福祉協議会 ☎(529)8300

## 第34回中学生の主張大会

市長賞

### 吾十五にして 後藤万里奈(一中・3年)



私はもうすぐ、十五歳になります。十五歳という言葉聞く度に、頭に浮かぶのが論語の「吾十五にして学に志す」という言葉です。

私は、勉強することが好きです。机に向かって文章を書いたり、数学の問題を解いたりすることに楽しさを感じます。そんな私を見て、友達はよく「どうしてそんなに勉強をするの?」と聞きます。以前は「叶えたい夢があるから、その準備をするためだよ。」と答えていました。しかし、私のその答えには、例えば「どうして廊下を走ってはいけないのか」という問いに「廊下は走ってはいけない場所だから」と答えるように、明確な根拠がないと思っていました。そして、自分でも勉強をするということへの具体的な動機を見出せずに、とても煮え切らない気持ちでいました。あるとき、そんな私に転機が訪れたのです。

それは、美術の授業のことです。私は、制作していた木彫りの鏡が完成したので、その鏡を掛けるための金具を付けようとしていました。しかし、金具の調子が良くて、千切れてしまいました。どうすれば良いかわからず、美術の先生に相談すると、先生は近くにあった釘をペンチで曲げて、その金具の代わりにして下さったのです。釘が金具の代わりになるのか、と私は驚きました。「こうやって機転を利かせることも『勉強』なんだよ。」と先生はおっしゃいました。その言葉を聞いて、私ははっとしました。自分が思い悩んでいたことの答えが分かったのです。

私の夢は、アフリカで産婦人科医として働くことです。もともと、医師になることを志していました。産婦人科医になると思ったきっかけは、二年前の夏に出会った、発展途上国の女性の現状について書かれた本です。その本を読んで衝撃

を受け、自分にできることは何か、と考えていました。たとえ、言語や文化の壁があったとしても、私は女性であるから、同じ女性の気持ちも分かるのではないかと。自分なりにそう結論を出し、産婦人科医になろうと決めました。

生きていくには、知識だけでなく、たくさんの方が力が必要です。きっと、それらは机の上の勉強だけではなく、自分の実感や、経験から培われるのではないのでしょうか。学ぶことは、行きたい大学に行くための手段ではなく「なりたい自分」を実現できたときに、自分を支えてくれる後ろ盾なのだ、私は気付きました。

それから、私は色々なことに挑戦するようになりました。その結果、アフリカでお仕事をなさっている先輩にお話を聞くことができ、自分の目指すべき姿が見えるようになったのです。マイナス思考となることも少なくなかった私自身も変わりました。

私は、フランス語を習得して、自分の目でアフリカの現状を確かめたいと考えています。言葉は、冬の夜空に輝くシリウスだと思えます。言葉で気持ちを伝え合うことができれば、インド洋の向こうにぼんやりと見えていたアフリカ大陸も、そこに暮らす人々も、はっきりと照らしだすことができると思うからです。私は、目標を必ず実現します。私には明日があり、若い私には大きな夢があるのです。

フランスの小説家、サン＝テグジュペリはこんな言葉をのこしています。「生きるということは、徐々に生まれることである」

私も、生まれたばかりの自分を大切に学んで続け、これからの人生を一つずつ歩んでいきます。

これが、もうすぐ十五歳になる、私の「志学」です。

気温の低い日や日当たりの悪い場所での道路への水まきは、凍結して転倒事故などの原因になります。大変危険ですのでやめましょう。問 道路課維持係・内線2401